平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月30日

上場会社名 理研ビタミン株式会社　　上場取引所　東
コード番号 4526　URL http://www.rikenvitamin.jp/
代表者　(役職名) 取締役社長　(氏名) 堺 美保
問合せ先責任者　(役職名) 専務取締役経営企画部長　(氏名) 山下 隆　TEL 03-5275-5111

四半期報告書提出予定日　平成26年2月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	63,026	9.9	4,002	38.0	4,287	42.3	2,856	53.6
25年3月期第3四半期	57,338	2.2	2,900	24.0	3,012	16.2	1,859	42.6

(注)包括利益　26年3月期第3四半期　5,806百万円　(96.9%)　25年3月期第3四半期　2,949百万円　(244.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	129.19	―
25年3月期第3四半期	82.08	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	102,339	65,691	63.6
25年3月期	94,257	60,728	63.9

(参考)自己資本　26年3月期第3四半期　65,107百万円　25年3月期　60,202百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	18.00	―	18.00	36.00
26年3月期	―	20.00	―		
26年3月期(予想)				25.00	45.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　有
26年3月期(予想)期末配当金の内訳　普通配当　20円00銭　記念配当　5円00銭
配当予想の修正については、本日(平成26年1月30日)公表いたしました「平成26年3月期　期末配当予想の修正(創立65周年記念配当)に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	85,500	10.2	4,700	30.5	4,900	31.0	3,300	37.1	149.24

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有
連結業績予想の修正については、本日(平成26年1月30日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
②①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	23,652,550 株	25年3月期	23,652,550 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	1,540,151 株	25年3月期	1,539,773 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	22,112,601 株	25年3月期3Q	22,660,122 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示
この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続きが実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
(将来に関する記述等についてのご注意)
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による機動的な経済政策・金融緩和策を背景に円安・株高が進行し、景況感に改善の兆しが見られたものの、為替変動（円安基調）の原材料価格およびエネルギー費への影響に加え、消費税率引上げへの不安感など懸念材料もあり、本格的な回復までには未だ予断を許さない状況で推移いたしました。一方、海外経済は、米国の財政問題、未だ下振れリスクを抱える欧州地域、中国をはじめとするアジア地域の成長ペースの鈍化などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当社グループでは、
◇中核事業での国内外マーケットシェア拡大と収益力向上
◇海外事業を成長エンジンと見据えた運営（開発・生産・販売）の強化
を柱に据えた「中期３ヵ年経営計画」を一昨年に策定し、持続的成長を図るべく、計画２年度目における重点戦略・施策に注力いたしました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の業績につきましては、先の東日本大震災からの復興を果たすべく取り組み強化を図った「海藻商品」の確実な実績化に加え、「ドレッシング」、「食品用改良剤」、「化成品用改良剤」といった主力商品群が堅調に推移し、且つ、海外事業の回復・伸長もあって、売上高は630億26百万円（前年同期比56億87百万円、9.9%増）となりました。
利益面でも、生産拠点での修繕費・減価償却費等の増加はあるものの、売上増に伴う収益増加がこれを吸収し、また、その他のコスト管理の徹底効果もあり、営業利益は40億2百万円（前年同期比11億2百万円、38.0%増）、経常利益は42億87百万円（前年同期比12億74百万円、42.3%増）、四半期純利益は28億56百万円（前年同期比9億96百万円、53.6%増）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

〔国内食品事業〕
『家庭用食品』では、当カテゴリーの代表的商品であるノンオイル「青じそ」および「くせになるうま塩」をはじめとする市販ドレッシングが、高評価と販売プロモーションの奏功もあり、特に期前半における着実な実績化で、売上は前年同期を上回りました。
震災からの完全回復を目指す海藻商品につきましては、『家庭用食品』での、こだわりの逸品からお手頃価格までの幅広い品揃えの「ふえるわかめちゃん」シリーズアイテムの新たな市場導入、および「わかめスープ」の着実な実績化、更には岩手県大船渡市に改めて立ち上げた工場で生産される「冷凍海藻」の『業務用食品』分野での販売等の寄与もあり、売上は前年同期を上回りました。また、「本かつお」、「こんぶ」をはじめとする「素材力だし」に代表される調味料類についても、販売促進策の奏功もあり、実績伸長に繋がりました。
『加工食品用原料等』でも、加工食品メーカーをはじめとするユーザーニーズへの的確な対応と提案型営業推進の結果、食品用改良剤・健康機能食品・食品向けビタミン等の主要商品の売上が堅調に推移し、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から15億75百万円（3.8%）増加した434億30百万円となり、営業利益は31億31百万円（前年同期比3億83百万円増）となりました。

〔国内化成品その他事業〕
プラスチック・農業用フィルム・食品用包材・化粧品などの工業分野で、加工性向上および帯電防止・防曇等の効果を発揮する商品を提供する『化成品（改良剤）』では、ユーザーニーズを見据えた提案営業推進も奏功し、前年同期を上回る売上を確保いたしました。特に、一昨年エコカー補助金需要があった自動車部品向けはその反動もあり、期前半において低調に推移したものの、期後半には復調の兆しが見受けられるようになりました。

また、『その他』の事業でも、飼料用油脂が、前年同期を上回る売上実績で推移いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から2億1百万円（4.6%）増加した45億76百万円となり、営業利益は4億26百万円（前年同期比93百万円増）を確保することができました。

〔海外事業〕

「改良剤」分野において、情報発信基地としての役割を担う「アプリケーションセンター」の機能も活かす中で、アジア・欧米をはじめとする各エリアの既存市場での深耕はもとより、成長が見込める新市場の開拓・販売拡大に取り組んだ結果、確実な実績化を図ることができました。また、前年同期、欧州向け水産加工品が高いウエイトを占める青島福生食品有限公司（中国）の売上が、その厳しい市場環境の影響を受けて大きく落ち込みましたが、その後、回復基調に転じ、当第３四半期連結累計期間においても前年同期を大きく上回ることができました。

この結果、当セグメントの売上高は、為替変動（円安基調）の影響もあり、前年同期から41億16百万円（35.4%）増加した157億47百万円となり、営業利益は7億32百万円（前年同期比5億41百万円増）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の総資産は1,023億39百万円となり、前連結会計年度末に比べ80億81百万円増加しました。主な増加は有形固定資産24億94百万円、投資有価証券23億17百万円、たな卸資産19億88百万円、受取手形及び売掛金9億26百万円であります。

負債は366億47百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億19百万円増加しました。主な増加は短期借入金12億0百万円、長期借入金10億3百万円であり、主な減少は引当金5億38百万円、未払法人税等2億97百万円、支払手形及び買掛金2億77百万円であります。

純資産は656億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ49億62百万円増加しました。利益剰余金が、四半期純利益の計上28億56百万円、配当金の支払8億40百万円により20億16百万円増加しました。また、その他有価証券評価差額金が14億28百万円、為替変動（円安基調）の影響で為替換算調整勘定が14億50百万円それぞれ増加しています。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年３月期の連結業績予想につきましては、平成25年４月25日に公表いたしました予想数値を修正しております。詳細につきましては、本日（平成26年１月30日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,869	13,133
受取手形及び売掛金	21,292	22,218
有価証券	1,009	816
商品及び製品	5,406	6,350
仕掛品	4,060	3,949
原材料及び貯蔵品	7,036	8,192
その他	2,178	2,312
貸倒引当金	△12	△2
流動資産合計	53,840	56,970
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,941	12,267
機械装置及び運搬具（純額）	7,877	8,201
その他（純額）	5,178	7,022
有形固定資産合計	24,997	27,491
無形固定資産	840	982
投資その他の資産		
投資有価証券	13,431	15,749
その他	1,164	1,160
貸倒引当金	△17	△14
投資その他の資産合計	14,578	16,894
固定資産合計	40,416	45,369
資産合計	94,257	102,339

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,355	10,078
短期借入金	10,305	11,506
未払法人税等	1,003	705
引当金	815	277
その他	5,592	6,645
流動負債合計	28,073	29,214
固定負債		
長期借入金	148	1,151
退職給付引当金	1,936	2,019
その他	3,370	4,261
固定負債合計	5,455	7,433
負債合計	33,528	36,647
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,537	2,537
資本剰余金	2,466	2,466
利益剰余金	53,906	55,923
自己株式	△3,745	△3,745
株主資本合計	55,165	57,181
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,807	6,236
繰延ヘッジ損益	18	29
為替換算調整勘定	210	1,660
その他の包括利益累計額合計	5,036	7,926
少数株主持分	526	583
純資産合計	60,728	65,691
負債純資産合計	94,257	102,339

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
売上高	57,338	63,026
売上原価	40,060	44,179
売上総利益	17,277	18,846
販売費及び一般管理費	14,376	14,843
営業利益	2,900	4,002
営業外収益		
受取利息	25	21
受取配当金	262	293
為替差益	24	151
その他	104	175
営業外収益合計	417	641
営業外費用		
支払利息	246	332
その他	58	24
営業外費用合計	305	357
経常利益	3,012	4,287
特別利益		
投資有価証券売却益	20	2
受取保険金	－	88
補助金収入	369	426
その他	6	28
特別利益合計	396	546
特別損失		
固定資産除却損	40	75
固定資産圧縮損	317	410
減損損失	51	－
投資有価証券評価損	36	－
その他	29	7
特別損失合計	474	493
税金等調整前四半期純利益	2,934	4,340
法人税等	1,056	1,458
少数株主損益調整前四半期純利益	1,877	2,881
少数株主利益	17	25
四半期純利益	1,859	2,856

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,877	2,881
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	632	1,428
繰延ヘッジ損益	△12	9
為替換算調整勘定	451	1,486
その他の包括利益合計	1,072	2,924
四半期包括利益	2,949	5,806
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,902	5,746
少数株主に係る四半期包括利益	46	60

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

セグメント情報

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自平成24年４月１日　至平成24年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	国内食品事業	国内化成品その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	41,843	4,375	11,119	57,338	－	57,338
セグメント間の内部売上高又は振替高	11	－	511	523	(523)	－
計	41,854	4,375	11,631	57,861	(523)	57,338
セグメント利益	2,748	333	191	3,273	(372)	2,900

（注）１．セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△266百万円、棚卸資産の調整額△106百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自平成25年４月１日　至平成25年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	国内食品事業	国内化成品その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	43,399	4,576	15,050	63,026	－	63,026
セグメント間の内部売上高又は振替高	30	－	697	728	(728)	－
計	43,430	4,576	15,747	63,754	(728)	63,026
セグメント利益	3,131	426	732	4,291	(288)	4,002

（注）１．セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△282百万円、棚卸資産の調整額△5百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。